

研究課題名	当院での低用量ランジオロールの人工心肺離脱に対する影響
研究体制	■長野赤十字病院が責任研究機関となる
研究責任者	当 院 所 属 <u>麻酔科</u> 氏名 <u>中川秀之</u>
研究期間	(西暦) 2017年2月 ~ 2017年3月
研究の概要	<p>(研究の意義・目的)</p> <p>心臓血管外科手術において、β遮断薬（内服薬）を投与することの有用性はほぼ確立したとあっていい。静注薬に関しては、いまだその有用性はClass2bといったところである。</p> <p>塩酸ランジオロールは、その短時間作用性、β1選択性の高さから他の静注薬とは一線を画し、麻酔科領域ではよく使用されるβ遮断薬である。</p> <p>当院の心臓血管手術において、塩酸ランジオロールを投与した症例(On群)としていない症例(NON群)を過去の症例から拾いだし、人工心肺離脱に関わる因子を後方視的に比較検討する。</p> <p>背景因子としては、年齢、身長、体重、BSA、術前のEF、β遮断薬の内服の有無、病名、術式。術中因子としては、人工心肺時間、大動脈遮断時間、大動脈遮断解除から自己心拍再開までの時間、人工心肺離脱時・ICU入室時のPMの有無、人工心肺離脱時・ICU入室時のカテコラミン(DOA/DOB)の投与速度を統計学的に比較し、低用量塩酸ランジオロールが人工心肺離脱に影響するかを検討する。</p> <p>塩酸ランジオロールの投与量は、過去の論文から2.0mcg/kg/minとした。</p> <p>(研究方法)</p> <p>研究デザイン：後向き研究</p> <p>主要評価項目：大動脈遮断解除から自己心拍再開までの時間</p> <p>副次評価項目：1.離脱時及びICU入室時のPMの有無 2.離脱時及びICU入室時のカテコラミン投与速度 3.術後不整脈の有無</p> <p>主要評価項目の解析：正規分布の有無に従い、t検定またはMann-Whitney U testで行う。</p> <p>副次評価項目の解析：連続数値の比較は、正規分布の有無に従いt検定またはMann-Whitney U testで行う。頻度比較にはFisherの正確確率検定で行う。</p>
研究対象者	<p>年齢30歳以上100歳未満。性別限定なし。平成27年12月から平成29年3月まで当院で心臓大血管手術を受けたもの。</p> <p>※当研究に自分の情報を使用してほしくない場合は下記のお問い合わせ先までお申し出ください。</p>

個人情報保護の方法	■連結可能匿名化
お問い合わせ先	<p data-bbox="491 297 738 331">〒380-8582</p> <p data-bbox="491 342 938 376">長野県長野市若里五丁目22番1号</p> <p data-bbox="491 387 687 421">長野赤十字病院</p> <p data-bbox="491 432 1050 477">所属 <u>麻酔科</u> 氏名 <u>中川 秀之</u></p> <p data-bbox="491 533 1177 566">TEL : 026-226-4131 (代表) FAX : 026-228-8439</p>